

道徳通信

福山市立駅家中学校 1 学年
2024 年(令和 6 年)11 月 11 日

いのちの大切さ

～こころとからだの話～

11 月 7 日(木)に 1 学年合同で道徳参観授業を行いました。福山市民病院の助産師、藤本先生、立木先生を講師としてお招きし、『いのちの大切さ～こころとからだの話～』と題してご講演いただきました。

講演の内容は、①助産師の仕事について、②保護者からの妊娠・出産のエピソードを聞く③妊婦体験、④妊娠の仕組み、⑤10 代で妊娠した際の影響、⑥性感染症、⑦望まない妊娠を避ける方法についてでした。

～生徒の感想から～ 『印象に残ったことは？』

今まで出産ということについて深く考えてきませんでした。でも、妊婦体験を見たり。実際に保護者の方のエピソードや助産師さんのお話を聞いて、どれだけ苦勞して、どれだけ大切に子どものことを思っているのかが伝わり、特に印象に残っているのは、保護者の方の「子どもの顔が見られるならがんばれる。」「子どもを一生大事にする。」といった子どもに対する思いに感動しました。

助産師さんが赤ちゃんの面倒をみるだけでなく、お母さんたちのサポートや不安をなくすためのアドバイスなど、母子ともに向き合って接しているということが印象に残りました。また、お母さんたちのエピソードを聞いて、自分や友達がどれだけお母さんに大切にされて支えられてきたのかが身にしみてわかりました。

妊婦さんになると体重が 10 kg 以上重くなるし、ボールペンを拾ったり、靴下をはいたりするときも、前が全然見えなかったりと日常生活がとても困難になることがわかりました。

おなかがつかえて
ペンが拾えない！！

重心が前に！！

10 代で望まない妊娠をしてしまったら、というところがとても印象に残りました。10 代で妊娠するだけで、その後の人生に大きく左右し、自分の夢ややりたいことにも影響することがわかりました。

助産師さんから初めて出産の話や赤ちゃんができるまでの話を聞いて、知らなかった話ばかりだったので、とても勉強になりました。印象に残ったことは、大きなお腹で動いたり、しゃがんだりすることが大変そうだなと思ったし、お腹の赤ちゃんに気をつかいながら生活しなければならぬことがわかりました。大人になっても今日聞いた話を忘れずに過ごしたいと思います。

おなかを、手で
支えないと
重いな～！！

～生徒の感想から～ 『大切にしていきたいことは？』

親だけでなく、いろんな人からもらった命は、ただの喜びではないということを知って、この命を無駄にしない、そして自分自身を好きでいたいと思った。命の大切さがどんなに大切かを改めて感じた。

妊娠している人たちの役に立てるようなことをしたり、命を大切にしていきたいと思いました。例えば、電車で座れなくて困っていたりしたら進んで声をかけ、譲ってあげたり自分ができることを考え、少しでも行動できたらと思いました。もちろん妊婦さんだけでなく、高齢の方、障がいを持っている方、動物や虫、植物など、たくさんの命に寄りそっていきたいと思いました。

両親が自分を思って頑張ってくれたのを忘れずに自分を大切にしようと思った。でもそれは他の人たちも同じだから、相手を傷つけたり、自分を傷つけたりしていないか考えることが大切だと思った。

これから大切にしていきたいのは、『人を思う心』です。『人を思う心』を持つことで、人の考えなどを尊重できる人になれると思ったからです。

親が自分を大切に思ってくれている気持ちを大切にしたいと思いました。もちろん両親だけでなく、多くの人々の支えで自分の存在は成り立っているとわかりました。その人たちに感謝するだけでなく、ここまで大切にしてもらっている自分を、自分でも大切にしなければいけないなと思いました。

望まない妊娠をしない、性感染症に感染しない、自分と相手の経済力や将来について、きちんと考えることが大切だとわかりました。

～保護者の方へ～

ご多用の中、道徳参観にお越しいただきありがとうございました。保護者の方から「体験を見るのも楽しく、すぐに時間がたちました。説明の内容も分かりやすかったと思います。」とのコメントをいただきました。また、妊婦体験にもご参加いただきありがとうございました。今後とも、学校・学年の取り組みにご理解とご協力をよろしくお願いいたします。